



Yokohama Yomiuri 横浜よみうり

■発行／横浜読売会
■発行日／毎月5日
■発行エリア／横浜市内全域
■制作／ヨコハマよみうり編集部
〒231-0021
横浜市中区日本大通7
日本大通7ビル4F YBP
<https://yokohama-yomiuri.co.jp>



世界を舞台に活躍する太鼓奏者・ヒダノ修一さん。伝統的な日本太鼓の枠を超え、ジャズやポップスなど多彩なジャンルの世界的アーティストと共演を重ねてきた、日本を代表する太鼓奏者の一人だ。8月に出身地の栄区で、栄区制40周年記念コンサートを行うヒダノさんに話を伺った。

衝撃的な太鼓との出会い

生まれは札幌ですが、5歳の時に栄区になる前の戸塚区に越してきました。24歳ごろまでは栄区に、その後、市内を転々とし、今は自分のスタジオがある港北区在住です。

音楽好きな両親の影響で幼少期から楽器に親しんでいました。特にピアノなどメロディー楽器が好きだったので小学校の器楽クラブに入りましたが、打楽器しか空気がなくボンゴを担当。中学の吹奏楽部ではトランペットを希望しましたが、再びじゃんけんに負けて打楽器に。さすがに「これは運命なんだ」と感じましたね(笑)。高校生の時に空前のバンドブームがありバンドを組みドラムを叩いていましたが、きちんと学ぼうと音楽大学を受験したところ失敗。浪人中に打楽器の師匠から太鼓の道を勧められ「太鼓芸能集団・鼓童」の舞台を初めて観ました。もう衝撃でした。マイクを使っていないのに大ホールの最後列の席まで振動が伝わってくる。その時に「太鼓の世界で生きていこう」と決めました。

ジャズクラブで飛び込み営業

鼓童に研修生として入ったものの、無理な姿勢で打っていたため腰を痛めてしまい、横浜に戻ってきました。とりえず名刺を作り、知人の紹介で横浜中のジャズクラブを回りました。当時は楽屋ではなく客席でお酒を飲んでいて大御所ミュージシャンの方々もいたので、勇気を出して声をかけて売り込みました。当時の太鼓界では珍しく僕は楽譜が読めるのでセッションしやすい。その場で何か叩いてみると言われてたり、後日連絡をもらって呼ばれたりしているうちに渡辺香津美さん、坂田明さん、村上ポンタ秀一さんほか大御所と知り合いになり、日野皓正さんのバンドにも参加しました。

やがて外国人ミュージシャンにも知られるようになり、2010年にはスティービー・ワン

ダーのアジアツアーに参加。FIFAサッカーワールドカップでは、3大会の公式開閉会式で演奏しました。これは世界初らしいです。

「和太鼓」というのは俗称で正式には「太鼓」。60年近く前に誰かが、他の太鼓と区別するために「和太鼓」と呼び始めたそうです。アメリカで大スターのセルジオ・メンデスに会った時「太鼓をやっている」と自己紹介すると「おお、太鼓のドラマーか!」と言われて。世界に通じる肩書「太鼓ドラマー」をいただいたと気に入って使っています。

楽しむことが一番

太鼓は日本の伝統楽器ですが、僕はルーツが洋楽なのでロックやポップス、クラシックなど、さまざまなジャンルとコラボレーションしています。もちろん伝統的な世界も学んでいるので、演出内容によって自在に叩きわけています。「こたわりはないの?」と聞かれることもありますが、こたわらないのが僕のこたわり。自分がやっていて楽しいのが一番なんです。

自分自身を太鼓側に合わせる

1回の演奏会で体重が3〜4キロは減ります。まあ打ち上げですぐに戻ってしまいますが(笑)、太鼓はそのくらい体力を使う全身運動。太鼓を使った評判のフィットネスを僕のスタジオで開催しています。太鼓は音楽でありスポーツでもある。その可能性が魅力ですね。

日本の太鼓は木をくり抜いて動物の皮を張るシンプルな作りなので、梅雨時期や乾燥時期など気候の変化で年間を通して音程が変わります。逆に西洋打楽器は自在にチューニングが変えられるので、いつでも好みのサウンドが生み出せます。太鼓はこの不自由さが特徴です。奏者はその日の楽器のコンディションに従って演奏するので、柔軟な感覚が必要です。最高の演奏を届けるには楽器へ



太鼓ドラマー・プロデューサー
ヒダノ修一さん
Hidano Shuichi

1969年生まれ、横浜市中区育ち。1990年ソロデビュー。公演数は世界41ヵ国で約3500回、21世紀の太鼓界のパイオニアの1人。ハービー・ハンコックやシーラ・E. ほか世界的アーティストと多数共演。嵐、ゴダイゴ、大黒摩季、ももいろクローバーZ、JO1、久石譲ほか国内でも多数共演。タライ・ラマ法王14世、上皇上皇后両陛下など御前演奏も多数。2001年横浜文化芸術奨励賞、2002年神奈川文化賞未来賞ほか受賞。 <http://www.hidashu.com/>

の感謝とリスペクトが大切ですね。

横浜に育ててもらった

8月に栄公会堂で、栄区制40周年記念「ヒダノ修一スーパー太鼓コンサート2026」を行います。昨年から準備をしてきましたが、ピンク・レディーの未唯mieさんがゲスト出演します。僕ら世代にはテレビですと観ていた国民的な大スターです。ピンク・レディーの大ヒット曲の数々で盛大なコンサートにしたい。ドラムは無しで僕が基本的なビートを演奏するので「日本太鼓のイメージ」が180度変わりますよ。

僕が育った栄区犬山町は盆地の上にあっ

て、そこから見る富士山がとて大きくて美しい。「ここは山梨か、静岡か」と思うくらい、裾野まで見えて。横浜で一番好きな場所です。

僕にとって横浜は生まれてこそいませんが、青春時代を楽しく過ごして自分自身を育ててくれました。そしてたくさんの人と出会わせてくれた素晴らしい場所。8月23日は感謝の気持ちを精一杯バチに込めて演奏したいと思います。

ヒダノ修一スーパー太鼓コンサート 2026 feat.未唯mie

8月23日(日) 17時30分開演
横浜市中区栄公会堂
一般6,800円(全席指定)
※栄区民割引あり



写真展

写真家がとらえた 昭和の子ども

～昭和100年を迎えて～

昭和元年から起算して満100年を迎える本年。昭和は、戦争や復興、高度経済成長へと大きく揺れ動き、まさに疾風怒濤の時代でした。

子どもたちを取り巻く生活環境もまた、劇的な変化を遂げていきました。写真に写る子どもたちの無心に遊ぶまなざしや、仲間と過ごすひととき、たくましく生きる姿。本展では、日本の写真史に名を残す写真家をはじめとした全19名の作品を通し、昭和の子どもたちの暮らしや遊びを紹介します。



19名の写真家が残した
157作品を展示

木村伊兵衛／土門拳／濱谷浩／林忠彦／植田正治／桑原甲子雄／岩宮武二／芳賀日出男／長野重一／田沼武能／熊谷元一 ほか

あーすぶらざ3F 企画展示室

日時 8月23日(日)、10時～17時 ※最終入場16時30分、祝日を除く月曜休館
入場料 大人400円、高校生・学生／65歳以上の方200円、小・中学生100円、未就学児無料 ※常設展示室も利用可

詳細や最新情報は
こちら▶



(右)長野重一「地村」昭和28年(1953)／熊谷元一「アッペンをかくる」(右)東京・江東／昭和28年(1953)／土門拳「入道」(左)東京都・江東／昭和28年(1953)／土門拳「あむし」

わたしの 昭和

写真募集!



2F展示コーナー

◆宇山あゆみコレクション展
「みんなの思い出洋品店」
懐かしい昭和の洋服や雑貨を展示します。

5F映像ホール

◆映画「フラガール」上映会
アフターパフォーマンス付き／Hula Pākipika
日時／7月25日(土) 料金／一席500円
〈午前の部〉10時～、〈午後の部〉13時30分～
要予約／7月11日(土) 0時よりweb予約受付開始

神奈川県立地球市民かながわプラザ

あーすぶらざ
TEL.045-896-2121

横浜市中区小菅ケ谷1-2-1

